

助け合う気持ち

先日、熊本の黒川温泉に行ってきました。ある旅行雑誌の人気ランキングでは1位になったこともあります。この温泉街の特徴は入湯手形を買くと、どこの宿に泊まっても、ほかの宿の風呂にも3件まで入れるところです。なぜ、このようなことを始めたのでしょうか。以前の黒川温泉はほとんどお客さんがいない、ひなびた温泉街でした。なぜこのようなことになっていたのでしょうか。それは各旅館が競争をしていたからです。どの旅館もまわりの旅館より1円でも儲けようと、狭い世界の中で競い合っていたのです。各旅館が景観を顧みず、それぞれの看板を立ててしまい、街中看板だらけになっていたのです。落ち着いたくない雰囲気を目にしたお客さんは二度と来なくなり、結果、見るも無残な温泉街になってしまいました。そのようなとき、ある旅館のオーナーが

「もう競争はやめよう。看板を外して助け合おう」と言い始めたのです。でも他のオーナーは

「そうは言っても、何をしたらいいんだよ?」と言いました。

「じゃあ露天風呂をつくらう」「でも、金がない、土地もないから、できない」すぐに壁にぶつかってしまいます。

その旅館のオーナーは3年半かけて1人で裏山を掘りぬき、1人の人間が手で掘りぬいた洞窟風呂をつくりました。1人の人間が手で掘ったということで、マスコミに取り上げられ、お客さんが来るようになったのです。それに影響を受けたまわりの旅館は「うちも露天風呂をつくらう」と、つくっていきました。そして、ほとんどの旅館が協力し合いながら露天風呂をつくっていったのです。ところが、最後に残った2軒が、どうしても協力してくれません。露天風呂をつくる土地がない、つまりスペースがなかったのです。その露天風呂のない2軒に対して、他の旅館の経営者たちはどうしたらいいか考えました。そしてなんと、この露天風呂がない2軒の旅館に泊まったお客様に、自分達の旅館の露天風呂を開放することにしたのです。「自由に使ってください」と、するとこの2軒にもお客様がやってくるようになりました。1軒に泊まるだけで、他の旅館の露天風呂にも入れるのですから。そしてとうとう、この街のすべての旅館が露天風呂をつくり、どこの旅館に入っても自由に入れることになったのです。

黒川温泉ときいて思い出すのは、観光地でも、学校・学年・クラスでも、ある集団が活性化するのに一番大事な気持ちは助け合う気持ちだということです。これから、受験シーズンを迎え、「まわりが手伝ってくれない」「まわりが応援してくれない」と感じるときは、たいてい、これまでの行事や他人の受験に対して、自分が応援や協力をしたことがないだけです。まず、自分がまわりの友人の受験を応援したり、困っていることを助けたりすることで、まわりが自分を助けてくれるようになるのです。同じ志望校を考えている友人がいたら、狭い日南高校の中で競争することなく、面接や小論練習、宿泊や移動方法の手配などで助け合って、全国を相手に競争してください。

3年3組担任 Y.G.

週行事予定表 (9/19 ~ 10/3)

月	日	曜	行事予定	備考
9	19	土	ベネッセ・駿台マーク模試 (16:20終了)	7:25着席完了
	20	日		
	21	月	敬老の日	
	22	火	国民の休日	
	23	水	秋分の日	
	24	木		7:25着席完了
	25	金		7:25着席完了
	26	土	寿太郎講座 (希望者) 地域ボランティア	8:10着席完了
	27	日		
	28	月	教育相談週間	7:25着席完了
	29	火		7:25着席完了
	30	水	中間テスト1週間前	7:25着席完了
10	1	木		7:25着席完了
	2	金	1~3限45分授業、全校集会 (4限:60分) 午後4~6限授業	7:25着席完了
	3	土	土曜講座	8:10着席完了